

=====

◆◇「犯罪からの子どもの安全」メールマガジン vol.9 ◇◆  
2009年5月29日号

=====

このメールマガジンでは、(独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センター(以下、RISTEX)「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域が領域の活動報告をはじめ、各種イベント案内、国の取組み、問題に取り組む人々の紹介など、犯罪からの子どもの安全に関する様々な情報を毎月一回程度配信しております。

次回から配信を希望されない方、登録情報を変更したい方は、末尾をご参照下さい。

メルマガについてご意見やご感想、こんな情報が知りたい、こんな取り組みを行っているなど、皆様からの情報をお待ちしています！

◆◆ INDEX ◆◆

1. 犯罪からの子どもの安全レポート  
ー子ども環境学会2009年大会(千葉)シンポジウム  
「防犯・交通安全とこどもの遊びの保証」  
ー子ども(児童)をめぐる国の取組みについて
2. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報・今月の見どころ
3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング  
今月一番注目されたコンテンツとは・・・

◆◆◆◆

-----

1. 犯罪からの子どもの安全レポート

-----

皆さん、こんにちは！

日に日に日差しが力強さを増していき、街なかでも山間部でも、緑が濃くなってきました。

4月に始まった研究開発プロジェクトの提案募集。締切日の6月9日(火)まで、あと2週間弱と迫ってまいりました。多くの方のご応募をお待ちしています。

さて、今月はプロジェクトのサイトビジットとして、「系統的な「防犯学習教材」研究開発・実践プロジェクト」と「計画的な防犯まちづくりの支援システムの構築」プロジェクトの全体会議、「子どもの被害の測定と防犯活動の実証的基盤の確立」プロジェクトとのグループ会議に参加しました。

3プロジェクトとも、特定の地域での調査、実証実験を進めており、

実際に地域で実施する中で壁にぶつかるなど、新たな課題が見えてきているようです。地域住民の方々から経験に基づく貴重な意見を頂いたり、相互に積極的な議論を交わし、試行錯誤を重ねてより良いものを作り上げていこうという意気込みが強く感じられました。

今回の犯罪からの子どもの安全レポートでは、1本目として、4月下旬に開催された子ども環境学会でのイベントをご紹介します。このイベントは、「計画的な防犯まちづくりの支援システムの構築」プロジェクトメンバーが企画に携わりました。

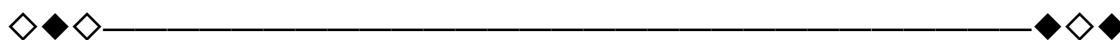
先日、同プロジェクトの全体会議に参加した時に、「犯罪学は犯罪を減らすことが目的ではなく、生活の質を高めることが目的である」という話がありました。

どの程度コストをかけて、犯罪リスクを減少させるのか？日本人は「ゼロリスク」を求めがちであるとも言われていますが、犯罪をゼロにすることは大変困難なことです。本領域では、単に子どもを犯罪から守るだけでなく、子どもの健全育成や見守る側の負担、生活の質など、他の価値観を損なわずに上手くバランスをとりながら、犯罪リスクを低減していくためには何が必要か考えていくことを、領域目標の中でもうたっています。

コストとリスクがどのようなバランスにあることを望むかは、人によってさまざまな考えがあるでしょう。同プロジェクトを進める中で、防犯まちづくりに取り組む地域住民が、多様な価値観が存在する中から、どのような地域を目指し、価値のバランスをとっていくのかを考える、そんなきっかけを作っていくことにもなっていくのではと感じました。

レポートの2本目では、領域担当が傍聴した厚生労働省の「第7回社会保障審議会児童部会社会的養護専門委員会」の様子を中心に、最近の子ども（児童）に関するさまざまな国の取り組みの中で、この領域に関係しそうなものをいくつかをピックアップして紹介しています。

ぜひご覧ください。



- 4月24日(金)開催  
子ども環境学会2009年大会（千葉）シンポジウム  
「防犯・交通安全とこどもの遊びの保証」  
（千葉県千葉市中央区 Qiball）参加レポート

「子どもの環境」と聞いて、皆さんはどのようなことを思いますか？昔は道草もできたし、秘密基地で遊べたけれど、最近の子どもは外で遊ぶこともできなければ、ストレスまで感じている…

平成20年版国民生活白書によると、15～19歳の子どもの半数以上がストレスを感じ、15歳の約3割が孤独を感じているとの調査結果が得られています。

[http://www5.cao.go.jp/seikatsu/whitepaper/h20/01\\_honpen/html/08sh010302.html](http://www5.cao.go.jp/seikatsu/whitepaper/h20/01_honpen/html/08sh010302.html)

子ども環境学会では、子どもを取り巻く環境の悪化についてとりあげ、研究者と実践者が集い、研究・提言・実践の中でよりよい環境の実現を目指しています。この学会の年次大会が千葉市で開催され、2日目のシンポジウムに参加してきました。

<http://www.children-environment.org/>

本領域の「計画的な防犯まちづくりの支援システムの構築」プロジェクトメンバーが企画に携わった本シンポジウム。200名近く参加者がいたでしょうか？部屋は満杯で、関心の高さが伺えました。

大変興味深かったのが、今回のテーマでもある防犯と交通安全のつながりについてです。オランダをはじめとする欧州各国では、交通事故を防ぐために、歩行者優先、車の速度制限といった規則や、車が高速走行できないように、道をジグザグにするなど工学的な工夫をした地区を設けて、子どもが遊べ、地域住民が憩える道路づくりに取り組んでいる地区があります。

ここでは、交通事故だけでなく、犯罪発生件数も減少したというのです。よくよく考えれば、犯罪者が車で逃走しようとした時に、面倒な道を選ばないとか、ご近所つきあいが増えたり、道路に面した窓のカーテンが開けられることによって、大人の視線が外に注がれるなど、様々な効果があるのかもしれない。

実際に犯罪数が減少したというデータが示されると、説得力があります。同プロジェクトでも、交通安全・子どもの遊びを取り入れた防犯まちづくりに取り組んでおり、今後の成果が期待されます。

今回、最も楽しみにしていたのが、米国フロリダ大学教授であるリチャード・シュナイダー博士による基調講演。「犯罪予防とまちづくり—理論と米英における実践」などの著書でも知られています。

今回は、「子どもが犯罪から守られる環境づくり」と題して、たっぷり1時間、犯罪予防に関する基礎も含めて講演されました。その中で、犯罪不安に関しても言及がありましたが、関連してパネルディスカッションの中でも話題に上ったのが、安全と安心は別であるということ。

安全は客観的に測られるものであり、安心は主観的なものである、安全が高まれば安心感も高まるというわけでは必ずしもない。客観的に犯罪に対する安全が高まったとしても、体感治安が悪くなる場合もあり、両者を考えていくことも必要です。

シンポジウムの後、シュナイダー博士を囲んでの懇親会が開催され、博士にこっそり、同プロジェクトについてのご意見をうかがったところ、返ってきた答えは、「うらやましい」でした。

地域コミュニティの力で子どもを犯罪から守る。米国のように、犯罪発生件数が日本と比べて多いと、莫大なコストをかけずにそのようなアプローチをとることができないため、その状況自体もうらやましいし、興味深いということでした。

プロジェクトの皆さん、これからも共に頑張って参りましょう！

(領域担当 N.A.)



## ●子ども（児童）をめぐる国の取組みについて

最近、国が行っている取組みの中で、子ども（児童）に関係するものをしばしば見聞きします。領域WEBサイトの「国の取組み」ページでも、

改めて見てみると、児童をめぐる取組みが名を連ねています。

先日、厚生労働省の「第7回社会保障審議会児童部会社会的養護専門委員会」を傍聴する機会がありました。昨年秋に児童福祉法等の一部を改正する法律が成立し、それによって、社会的養護体制の拡充などのための具体的な施策が検討されているところのようです。

審議会では、具体的政策の説明や「社会的養護施設に関する実態把握のための調査」の結果報告が行われました。出席者である有識者の方々からは、「ここでの調査結果をどう生かしていくのかを明確にしてほしい」、「調査内容を実態に即したものにすべき」など、厳しい指摘もありましたが、「せっかく児童福祉の分野に焦点を当てた大規模な調査が行われているので、ぜひ有効なものにしてほしい」との期待も寄せられていました。

児童ポルノに関する取組みも、このところよく見聞きするものの一つです。昨年11月開催された「第3回児童の性的搾取に反対する世界会議」での成果文書や、平成20年度総合セキュリティ対策会議「インターネット上での児童ポルノの流通に関する問題とその対策」の報告書が警察庁より公表されています。

総合セキュリティ対策会議の報告書によると、児童ポルノは、その製造時に個々の児童への著しい性的虐待を伴う、インターネット上に一旦流通したものの回収が極めて困難であるなど重大な問題をはらんでいるとのこと。さらに「児童ポルノに対しては『絶対に許されないもの』との立場で臨むべき」、「我が国における児童ポルノ流通防止対策は欧米諸国に比べて遅れているので、早急に具体的な取組みを進める必要がある」との力強い報告がなされていました。

その他にも、内閣府が「青少年が安全に安心してインターネットを利用できるようにするための施策に関する基本的な計画（素案）」に対する意見募集を行っていたり、法務省の法制審議会民法成年年齢部会が成年年齢の引下げについて議論を行っていたりと、さまざまな分野で「子ども・児童」といった共通のカテゴリの下、取組みや検討がなされています。

次世代を担う子どもに対するせっきくの取組みが効果的なものとなるためには、縦割りの型にとどまらず、大きな枠組みの中で柔軟に生かされるためにはどうしたらいいか、というところまでを見据える必要が出てくるのではないかと思います。そのときは、従来の枠組みにとらわれない“次世代の感覚”を持って臨むことが求められるかもしれません。

それぞれの取組みの詳細についてはこちらをご覧ください。

→<http://www.anzen-kodomo.jp/ministries/>

(領域担当 S.F.)

---

## 2. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報・今月の見どころ

---

### 【更新情報】

#### ●国の取組み

平成21年版「犯罪被害者白書」の公表について（内閣府）

<http://www8.cao.go.jp/hanzai/whitepaper/index.html>

「高校生活及び中学校生活に関するアンケート」（高等学校中途退学者及び  
中学校不登校生徒の緊急調査）結果について（内閣府）  
<http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu.htm>

「新しいコミュニティのあり方に関する研究会」（第8回）  
議事次第・資料（総務省）  
[http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/kenkyu/new\\_community/12634.html](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/kenkyu/new_community/12634.html)

「凶悪・重大犯罪の公訴時効の在り方」について（意見募集）（法務省）  
<http://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?BID=300090013>

法制審議会民法成年年齢部会第13回会議資料（法務省）  
<http://www.moj.go.jp/SHINGI2/090327-1.html>

その他の取組みについてはこちら  
→ <http://www.anzen-kodomo.jp/ministries/>

## ●イベント情報

平成21年5月30日 日本教育メディア学会 2009年度第1回研究会  
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jaems/>

平成21年5月31日 NPO法人チャイルドライン支援センター  
「設立10周年記念「よみがえれ！子ども力」  
<http://www.childline.or.jp/supporter/anniversary/anniversarry.html>

平成21年6月7日 NPO法人おやじ日本 「NPO法人設立記念大会」  
「世界のおやじ、日本のおやじ」～語ろうじゃないか、  
子どもへの思い～  
<http://oyaji-nippon.org/>

平成21年6月19日 都市防犯研究会 講演会  
「環境犯罪心理学の視点と都市計画への展望」  
<http://www.anzen-kodomo.jp/pdf/20090619.pdf>

平成21年6月19日 警察政策学会 第12回シンポジウム「ネット社会の課題」  
－サイバー空間に潜む危険と安全対策－  
<http://www.asss.jp/>

平成21年6月20日 東北大学大学院文学研究科グローバルCOE・  
台湾青少年犯罪防治学会共催  
国際シンポジウム「社会階層と青少年の逸脱」  
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jacp2/>

平成21年6月21日～日本市民安全学会・警察政策学会 他  
「実践的市民安全学オープンカレッジ」  
<http://www.shimin-anzen-gakkai.org/>

平成21年7月4日～日本子ども社会学会 第16回 学会大会  
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jscs2/>

その他のイベントについてはこちら  
→ <http://www.anzen-kodomo.jp/event/>



### 【今月の見どころ】

今月の見どころは、調査・レポートに掲載した  
「平成20年度研究開発実施報告書」です。

この報告書は、各プロジェクトにおける平成20年度の研究開発の進捗を  
各プロジェクト自身でまとめたものです。それぞれのプロジェクトが、  
昨年度一年間にどのような取り組みを行ったのかが具体的に記されています。

プロジェクトとして最終的に目指す全体像をパズルに例えるならば、  
この報告書はそのうちの1ピースといったところでしょうか。

毎年1ピースずつ埋まっていくパズルを見ながら、完成を心待ちに  
するのもよし、完成図を念頭に置いた上で、次はどのピースが埋まるのかを  
楽しむのも、またよし。

お好きな読み方をして、「犯罪からの子どもの安全」について考えて  
いただければ幸いです。「分かりにくかった」「新たな視点が得られた」  
などなど、読んでみてのご意見・ご感想もお待ちしています。

平成20年度研究開発実施報告書  
→ <http://www.anzen-kodomo.jp/reporters/project.html>

---

### 3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング

---

#### 【アクセスランキング】

- ☆ 1位 平成21年度募集要項（全体）  
[http://anzen-kodomo.jp/pdf/guideline\\_h21\\_all.pdf](http://anzen-kodomo.jp/pdf/guideline_h21_all.pdf)
- 2位 第2回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウム予稿集  
<http://anzen-kodomo.jp/pdf/col04.pdf>
- 3位 イベント情報  
<http://www.anzen-kodomo.jp/event/>

\*\*\*\*\*

#### 「犯罪からの子どもの安全メールマガジン」

- ▼メールマガジンに関する各種変更、配信登録・解除はこちら  
<http://www.jst.go.jp/melmaga.html>
- ▼ご意見・ご感想、お問い合わせはこちら

c-info@anzen-kodomo.jp

■発行日 2009年5月29日

■発行元

(独) 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター

「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域

領域WEBサイト <http://www.anzen-kodomo.jp/>

社会技術研究開発センターWEBサイト <http://www.ristex.jp/>

\*\*\*\*\*